

【進路指導係から、休校中の日大二中生・二高生へ】

今日は、本来ならば高校生は学年末試験の初日。朝から教室や廊下、コモンスペースなど、あちこちでノートやプリントを見ながら、「これ出るって言ってたよね！」とか、「もうダメだあ〜！！」などの声が聞こえてくる日でした。私たち教員も、「無事全員 SHR から来ているかな…」とか、「電車やバス、頼むから遅延しないで…」とか、「あの子ちゃんと勉強してきたかな…」とか、「頼む！〇〇点はとってくれ！！」などと声に出したり、心の中で呟いたりの日でした。皆さんのこれまでの頑張りや授業の理解度が、定期試験という形で見ることが出来ないのは、教員としては本当に寂しい限り。断腸の思いとはこのことです。

今日という日をどんな思いで迎えていますか？ この間に行うべきさまざまな課題も担任から提示されましたが、きちんと学習に取り組んでいるでしょうか？ このような状況下で、技術的には「一斉監視システム」の導入によって、皆さんのご家庭での過ごし方をリアルタイムで学校に配信してもらい双方向でやりとりすることも可能な世の中になってきています。本校はそのようなシステムは導入していませんが、家庭の中まで「教員の目」が入ることについて、皆さんはどう思うのでしょうか？ 実はこんなことまで、最近の大学入試では「監視社会の是非」として、小論文だけでなく、現代文や英語長文のテーマになったりします。

さて、学校から提示された課題以外にも、せつかくのこの間、「不要不急の外出を避ける」にとどまらず、進路指導係として、皆さんには考えてほしいこと、行ってほしいことが山ほどあります。そのうちのいくつかをお示ししますので、是非、考え、行ってみてください。

①今回の休校に至った経緯や、日々のニュース報道を確認し、自分なりに分析してみよう。

…今回の、全国の小・中・高等学校への休校要請はどのような機関が、どのような人が、どのような意図をもって決定したのか？ そして、その経緯や判断について、君はどう考えるか？ この“全国的な休校要請”が社会に与える影響はどのようなことがあるか？ この影響を受けた人たちはどのように対処したか？ この影響を受けて困っている人たちに社会はどのような手を差しのべたか？ 君がその立場だったらどのような行動をとるか？ 新型コロナウイルスはどのようなウイルスなのか？ インフルエンザなどとどう違うのか？ なぜここまで世界的に問題になるのか？ 日本政府や企業などがとっている対応は適切だと思うか？ このような事態と似たようなことは今までになかったか？ 経済にも深刻な打撃を与えていると言われるが、特に困っている企業はどのような業種か？ 逆に売り上げが増す企業はどのような業種か？ 現在、品不足となっている商品は何か？ 品不足となっている商品を生産するには何が必要か？ マスクや消毒薬などの大量生産はどこで、どう行われているのか？ 人々の行動はどのように変化したか？ ネットで流れるデマ、フェイクニュースを見破るにはどうしたらよいか？ 「冷静な行動」「適切な対応」をとるには、どのように情報を集め、どのように考えればよいか？ なぜこのような事態になると、冷静に対応できない人が目立つようになるのか？ そもそもウイルスとは何か？ 自然とは何か？ 人間とは何か？ …などなど、今回の一連の出来事はさまざまな問題を私たちに投げかけています。そして、**これらの問題を考えることは、君の将来のあり方・生き方、仕事や職業に大きな影響を与えるはず**です。

身近なところでは、**中学1年生の君が大学入試に臨むときまで、大学入試問題にも影響します**。大学入試問題は「社会を映す鏡」とも言われます。東日本大震災とそれに続く福島第一原発事故が起こった年の翌年以降の入試では、さまざまな教科でそれに関連する出題がありましたし、アメリカでトランプ政権が誕生した翌年以降の入試では、民主主義そのものを問う出題が目立ちました。今年度の大学入試でも、ある私大医学部では、さっそく小論文で新型コロナウイルスへの対応が出題されていますし、東京大学の国語の入試問題では、教育が社会の格差に与える影響を出題しています（昨今の大学入試改革や学校教育改革の問題を意識した出題です）。テレビのニュース番組や新聞報道だけでも、これらの問題を考える材料はたくさんありますし、ネット上でもいろいろ調べられます。わかりやすく解説した本もたくさんあります。ぜひ、主体的に考えてみてください。

②有意義な読書の時間を増やし、修了式まで3冊は読んでみよう。

…①で示したいろいろな問題を考えるだけでなく、今悩んでいることや、将来の進路に向けて、読書の時間を増やしてください。時事問題や専門的なことを考えるとき、一般の人向けにわかりやすくまとめられた本が「新書」という本です。岩波新書、中公新書、講談社現代新書、ちくま新書、文春新書、PHP新書、集英社新書、朝日新書などなど、多くの出版社から出されていて、1000円前後で購入できます。「専門的で分からない」という部分があっても、そんな部分は読み飛ばして、**全体の内容を大まかにつかむ、そして特に心に残った部分を記憶しておく、という読み方ができるようになってください。**大学入試では、面接試験対策として、最低でも3冊は読んで面接官の質問に対応できるようにする必要があります。

また、**古典的な（昔から読み継がれている）文学作品も是非、1冊は読了**してみてください。各学年の国語などの授業で「読んでほしい本」は提示されていますが、それにとどまらず主体的に本屋さんで文庫本を手にとって「あらすじ」を見てみたり、ネットで検索したりして、今の自分が関心を持った本を読了してみよう。古典的な小説の中には、みずみずしい感性をもった中学生・高校生のうちにしか「味わえない」作品が多くあります。夏目漱石でも森鷗外でも芥川龍之介でも太宰治でも、また、日本にとどまらず、ヘッセでもスタンダールでもドストエフスキーでもカフカでもサルンジャーでも、古典的な文学作品には「時代」に耐えてきた意義があり、今読んだ後、大人になったときに読むと、異なる印象を受けるものが多いです。

③大学など上級学校をさらに調べよう。

…中学生には早いと思われるかもしれませんが、今のうちから、「大学ってどんなところ？」という意識を持つことは、これからの学びに大きな意義があります。中学2年生は日本大学の理系学部見学行事に行きましたが、大学の学部学科はもっともっとさまざまなところがあります。高校生はすでにいくつかは調べているはずですが、それをもっと広げたり深めたりしてください。

特に、**例年オープンキャンパスが盛んに行われる7～8月の時期が、今年は東京オリンピック・パラリンピックと重なるため、首都圏の多くの大学が夏休みのオープンキャンパスを行わないことが予想されます。**そして、新学期が始まると勉強やらクラブやらで、大学見学に行く時間がとれなくなったりもします。今の時期、オープンキャンパスの企画がなくても、**各大学などに問い合わせ、入試日などと重ならないければ、大学内を見学したりできます。**自分の家からのアクセスやキャンパスの雰囲気など、行ってみたいとわからないことは多くあります。また、もし外出が心配なら、各大学のホームページを見るだけでも有意義ですし、時間もかかります。ホームページでは「受験生の方へ」という箇所だけでなく、「在学生の方へ」の内容も細かく見ると、どんな授業があるのか、どんな資格がとれるのか、などなどが詳しくわかります。大学の先生の名前から、どんな人で、どんな研究をしている、どんな本を書いているのかもわかります。大学名や偏差値からだけでなく、「研究分野」からも調べてみましょう。

④（高校生向け）大学の過去問題集（いわゆる「赤本」）を見てみよう。

…大きな本屋さんには「赤本コーナー」というところがあり、教学社から出版されている各大学・学部ごとの過去の入試問題集が販売されています。毎年6～10月ころには年度更新されるので、古い問題から順に削除されていきます。どうせ来年買うから…と思わずに、1年分古い問題も学習できるので、今のうちに時間があれば見ておくことが大事。大学・学部にはそれぞれの入試問題の特徴があり、偏差値が高くても自分にとって点がとれる出題だったり、その逆もあつたりします。まだ受験勉強が完成していないので、できなくて当たり前。**合格最低点はどこの大学でも7割程度です。どんな出題なのかを知っておくだけで、4月からの学習が一層意義深いものになります。**

以上、具体的には各学年でこれまでもお話されていることがほとんどですが、せっかくのこの期間、自分にとって有意義なものとなるよう、主体的に自分を高めていってください。